（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3290400112		
法人名	社会福祉法人多伎の郷		
事業所名	グループホームはなんばの里　2		
所在地	島根県出雲市多伎町口田儀750番地		
自己評価作成日	令和6年1月9日	評価結果市町村受理日	令和6年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和6年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の笑顔を大切にしています。そのため、不適切であろうケアを職員間で報告しあい、自分たちのケアを振り返るようにしています。常に相手の立場に立ったケアができるよう工夫しています。また、運営推進会議では出来るだけ多くの委員の皆さんの意見を頂けるように働きかけ、事業所の運営に関することについてアイデアを頂いたり、地域に根ざした施設になるように努めています。施設内はいつも賑やかで笑い声が絶えません。職員も明るくご利用者に接しています。法人の事業所内の中でも特に面会に力を入れています。時間制限はありますが、ご家族との面会の意味を重要なものと捉え、出来るだけ沢山の方に会っていただくように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

日本海に面した静かな場所にあり、施設前の広い駐車場は地域行事に活用され交流も盛んだったが、コロナ禍で中止が続いていた。昨年より段々と復活し、関わりを持てたことに喜びの声が多く聞かれた。一昨年の秋、利用者と職員双方からコロナ感染者が出たが、専門家の指導を受け乗り切っている。コロナ禍を機に利用者の入れ替わりもあったようだが、ホールからは歌声や職員と談笑する声がよく聞こえており、イスの体操で体を動かしたり、手作業も盛んに行われている。母体の法人には多くのサービスがあり重度化への対応も可能だが、ここでの看取りを希望する声が多く、以前から看取りを行っており今後も続ける意向を持っている。管理者からは待機者の減少に不安の声が聞かれ、ケアの充実への焦りも感じられたが、時間をかけて段々といろいろな動きが変化してきていることが実感できた。今後も幅広い研修に取り組むことで職員個々がレベルアップし、より良いケアを目指していただきたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナの影響もだいぶ緩和され、地域の祭りや消防の出初式の見学を行う等地域の行事を通じて利用者様が笑顔になれる取り組みを行った。	名刺サイズの大きさに法人の理念、基本方針、行動指針が記載されたものが職員全員に配布されている。名札に入れて身に着け、時折読み返すようになっている。グループホーム独自の理念もあり、事務所には目のつく場所に掲示し意識統一に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウイルスの影響で地域の祭りが中止となり、毎年行っている交流が出来なかった。次年度は状況を見ながら祭りの見学に加え、伝習館での展示会の見学等、少しずつ地域との交流を考えていきたい。	地域の祭り、行事が徐々に戻ってきており、祭りの神輿や田上囃子の披露、新年恒例の出初式も施設前の川で行われている。少し離れた位置からみんなで見学することができている。コロナ禍でも看護学生や専門学校生の実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症に関する勉強会等は行えていない。人員不足により、勉強会などの開催が見通せない部分もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見や要望は、朝の朝礼や詰所会議で報告し改善策を話し合ったり、サービスや質の向上に向け職員の意識統一に繋げている。	家族代表、以前ボランティアで関わりのある地域の方、包括等から参加があり定期に開催。利用者状況、行事等の活動状況、研修報告等を行い意見を得ている。災害があったことで避難を含めた施設側の対応には、特に関心が寄せられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適時に市担当部署に連絡するなどして、困ったことなどを協議・検討し、問題点はその都度解決するなどしている。	運営推進会議には毎回参加があり、専門的立場から助言を得たり、毎月施設の空き状況を伝え利用者の紹介をお願いしている。措置入所の方があり、受診を含め情報を常に共有できるように関わりを続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する事業所内研修会を年2回実施しており、職員全員が禁止行為など正しく理解できるように取り組んでいる。玄関の施錠については土地柄、安全確保のために全てを開放することは難しいが、外に出たい方には職員が付き添い、容易に出かけられるようにしている。	虐待や身体拘束等を含め、職員が各自で資料を用意して定期的に内部研修を行っている。身体拘束廃止委員会では、利用者の日常あった危険な行為を出し合うことで、1人1人の危険度を考える取り組みを行っている。職員個々に意見がよく出ており、目線を変えることで新たな気づきに繋がってきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月のユニット会議で1か月間を振り返り、不適切なｹｱとして話し合っている。話し合いの中でストレス軽減や対応策等を考えるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する事業所内研修は行っていないが成年後見制度を活用されている利用者は在籍している。人員不足で施設外での研修に参加する機会はなかなか持てないが、施設内で学べる機会を持つようにし、理解を深めることが必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には入所案内に補足事項を書入れ手紙を添え、入所の準備がスムーズに行くようにしている。また、いつでも問い合わせができるようにご家族の希望を伺い迅速な対応ができるようにしている。入所時には利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制等の実際などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。また利用者やその家族が心配されていることなど伺い、いつでも相談頂けるよう話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家庭通信やはなんばの里だよりにて利用者の様子を伝えている。面会時、常に問いかけ何でも言っていただけるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見・要望等は職員で話し合い、反映させている。	コロナ禍前は行事の際家族を招き、食事会をしたり意見を聞く機会を設けていたが中止の状況が続いている。グループホーム全体の行事の様子がわかる便りや、個人的な情報は3か月に1回通信として送ったり、電話や面会時にも意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	詰所会議等で職員から意見を聞くようにし、アイデアは実現可能になるようにアドバイス等行っている。	年度当初にアンケート形式で重点目標を作成して振り返り，次年度に繋げる取り組みはあったが、今まで個人面談がなかったので昨年から時間を取り実施している。初めてのことでもあり、信頼関係を築くことで今後意見が出てくるよう管理者は期待している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員登用試験、資格取得の支援や取得後の昇給等により向上心を持って働けるよう努めている。代表者は日頃より個々の職員の話をよく聞き状況を把握すると共に、産業医として健康診断に基づいての指導・アドバイスを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で必要に応じた研修をほぼ毎月行っている。また、職員が実践者研修に参加する機会があり、今後の実践に活かしていけると良いと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に施設長が参加されたが、他の職員も時間が許せば参加されると良いかと思われる。実践者研修に参加した際に他事業所との意見交換や交流も行えた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止め、生活状態を把握するよう努めている。職員が本人に受け入れられるような関係作りに努め、焦らず、ゆっくりと行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者・家族との関わりを重視し、利用者さんが安心した生活ができるよう、また、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご家族に施設でどのように過ごして頂きたいか、何を継続していけばよいのか等伺うようにしている。他のサービスも問い合わせがあれば説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりが自信を持っている事、得意としている事を把握し、その場に応じて、手伝っていただけることをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスで面会制限があり、家庭通信や電話で本人の状況や変化をお伝えしている。会話が出来る方で抵抗ない方については電話で話をして頂き、ご家族が安心を得られるように努めている。本人を支えていく協力関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナウイルスの影響で外出する事が難しい時もあったが、制限緩和になった際はドライブや散歩に出かけたりした。	以前地域の敬老会に招かれ出向いたが、地域との隔たりを感じ、関わりの難しさを経験している。積極的な動きは持ちにくいが、定期的な訪問理美容の機会として毛染め、カット、ネイルなどがあり、楽しみにしている方が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動や食事の時間、茶話会を通じて各利用者と関りを持つようにしている。 毎日話をする事で心身の状態や気分・感情の変化等を注意深く見守っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の希望がないので実施していない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で利用者さんの言葉・表情などに気づき、思いなどを把握できるよう努めている。家族からの情報を参考にしている。	表情の乏しい方は変化を見逃がさないようにしたり、関わりやすい人に偏らないようにしたり、思いの把握に努めている。精神面が不安定な方がいるが、訴えに耳を傾け、心情を理解するよう職員間で検討を続けている。次年度は記録の充実を重点目標に揚げる予定である。	より充実した個別対応ができるよう検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活スタイルを本人や家族から情報を得て、得意なこと興味のあること日課にしていたこと等を継続してもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態の把握に努め、生活の中で、できること、介助が必要なこと等を話し合い、得意なこと等を手伝っていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議兼担当者会議で話し合い、対応や解決策を検討しているが、アセスメントやモニタリングに関して情報をしっかり捉えることが出来ていない部分もある。	3ヶ月に1回モニタリングをまとめている。計画作成に繋げられるよう様式も変更し、細かく記入するようにしている。アセスメント、計画作成、実践、モニタリングと繋がりのあるものになるよう検討している。コロナ禍で利用者や家族が参加しての担当者会議はできていないが、面会時や電話等で意見を聞くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気になること、感じたことをユニット会議で話し合い、ケアにつなげている。何か気になる事があれば会議を待たずその日の出勤のメンバーで話し合いケアに繋げている。連絡ノートやカンファレンスノートを活用し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の状況に応じて通院・往診など必要な支援は柔軟に対応している。同法人内の他の事業所との連携も図られており、多機能を活かした支援がなされている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響でご家族に協力して頂くのも大変な時期もあった。出来る限り協力して頂ける用に心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を基本としており、体調の急変時には往診依頼などしている。良好な関係を築けており、適切な医療を受けられるよう支援されている。	今までのかかりつけ医を継続しており、定期的な往診により急変時や看取りの対応も可能になっている。精神科からの入所者もあり、日頃の様子を詳しく伝えることで精神面の安定に繋がるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定など　体調の変化、些細な表情の変化を見逃さないようにし、変化等気づいたことがあれば看護職員に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に提供し、家族や病院と情報交換をしながら速やかな退院支援ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」を作成し、利用者、家族に説明し同意を得ている。利用者の状況に応じて家族と話し合いをしながら対応ができている。	看取りについては、入所時にも状態の悪化に応じても話し合いの機会を持つようにしている。同法人に特養があることから、設備面や金銭面の負担を考慮して申し込みを薦めるが、ここでの看取りを希望されるケースが多く、職員は自然の流れとして取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年ではないが、緊急時に備えた初動対応についての研修を行っている。今年度はコロナ発生時やノロウイルス感染症に関しての初動対応について研修及び訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防火災訓練を年に2回行っている。今年度は津波想定の訓練も実施した。災害時に的確に動けるようマニュアルの確認やBCPの見直しも行いながら急な災害に備えたいが、把握できていない職員にどう伝えていくかを引き続き、課題としてあげ、全職員がしっかり把握するにはどうしたら良いかを考えていきたい。	年2回昼間と夜間想定で火災中心の訓練や大雨洪水を想定して訓練を実施していたが、施設が海に近く前が川でもあり、地震の際の津波を想定した訓練も実施している。施設の裏山も土砂災害危険区域であり、数年後には砂防ダムの建設が決定している。これらの自然災害を想定して、今年度は法人全体での訓練を予定している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴や意思疎通の図りにくい方が増えた。一つ一つ伝える必要があり、口調に気をつけながら、丁寧にゆっくりと話して対応する様に心がけている。	以前からトイレ介助の際のプライバシー確保や、上から目線でない個々に合った声掛けなどは改善してきているが、ケアの基本として繰り返し検討するようにしている。虐待、拘束を含め接遇研修も担当が中心になり実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、表情を読み取ったり些細なことでも本人が決める場面を作るようにしているがまだ不十分である。自分で判断出来ない時もあるが分かりやすい説明を心掛け自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、利用者の体調等をみて柔軟な対応をしている。コロナやインフルエンザの影響で人の多い場所への外出は避けているが、ドライブや散歩等、状況を見ながら外へ出る機会を作って外気浴、日光浴を通して気分転換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容を毎日きちんと出来る様にしている。爪切りも時間を見つけてこまめに行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	活動(お楽しみ会)の一環でおやつ作りをする時間を作り、利用者と行えた。アレルギー等食べれない物が出る時は他の物を提供している。食後の片づけでお盆、食器拭きをして頂いている。	主食と汁物は作るが、副食についてはメニューが決まった食材が届くようになっており利用している。きざみ食やミキサー食にも対応している。平日は調理担当職員が主に行い、あまり多くはないが野菜の準備やお盆拭きなどを手伝う方がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調、状況、一日の摂取量を把握している。人によって、刻み食、ミキサー食と状況に合わせて提供している。水分はチェックを行い1500～2000ccを目標にしているが少ない日もある。毎日こまめにチェックをし、目標に飲水量になる様工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所で、毎食後、見守りの中、歯磨き・うがい等をして貰い、不足な所は手伝っている。夜間ポリデント使用し、義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせて排泄誘導している。座って頂くだけでなく、排泄し易い姿勢を促して、排泄をして頂いている。	夜間は安眠の為にオムツでも昼間は紙パンツにパットにする、かぶれる方の場合は布パンツに変更する、夏場は蒸れるためにパットを小さい物に変更するなど、声がけ誘導を含め、個々に合った対応を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲食物で水分量を多く摂れる様に心掛けている。体操・レクリエーション等を行い、体を動かして貰っている。今後は個々にあった体操やレクが出来る様に工夫していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しく入浴出来る様に心掛けている。リフトを活用し、無理のない様に入浴して頂いてる。 入浴拒否される方には、無理強いせず、どう声を掛けたら入って頂けるか工夫しながら誘っている。	やや大き目の家庭浴槽で片方のユニットにはリフト浴が設置してある。個々に合わせた対応としているが、湯舟に入りたくない方も多く、シャワー浴対応としたり、嫌いな方には毎日声がけしたり、週2回は入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努め、安心して眠れるように支援している。午前中に傾眠状態にある方に関しては、短時間の睡眠を促したり、朝が苦手な方については食事時間をずらし、ゆっくり休んで頂くなど、個々に応じた対応が出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、確認できるようになっている。服薬変更の際には状況の把握に努めている。服薬後も状態を観察し変化を見逃さない様に努めている。飲み忘れがない様にチェックシートの活用や職員同士の声掛け確認をしっかり行う様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとり、姿と日々の関わりや会話の中でその方の変化を知り、役割・嗜好品・楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響もあったが、天気の良い日は感染対策を行いドライブや散歩をして外気浴をし、気分転換を図っている。また、近くに住んでいるご家族の方との散歩の機会を作って一緒に花見散歩を行った。地域の方とは関わる時間も限定されるため協力をお願いする事はなかった。	隣の認知症のデイの車の空きを利用して、数人ずつドライブに出かけている。施設の敷地が広く外周を散歩したり、前の川には鯉がいるので餌やりに行っている。天気のいい日には裏のテラスでお茶したり、夏にはプランターで夏野菜を栽培したり、外気に触れる機会を作るようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布、お金を預かっているが、買い物外出をする機会がない為、本人が使用する事はないが、靴は業者に来てもらい、自分の靴を選んでもらい購入する機会を作ってみた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、介助・見守りなどしながら電話してもらっている。以前は、書かれた手紙を出していた時もあるが今はしていない。三ヶ月に一度、担当からの便りで様子を知らせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感をとりいれる採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りものなどを飾って居心地良いテーブル配置を工夫している。 居室やホールなどの室温も利用者の声を聞いたりや身体に触れて適切な温度で過ごせるようにしている。	玄関を入ったら事務所を中心に左右対称の建物になっている。ホールには畳の部分がある。以前ほど利用頻度はないが、昼食を取ったり、横になって休んだり、看取りの際に活用したりしている。建物内部の区切りが少なく、ユニット間の行き来が多い。敷地が広く窓からは海も山も見え、花木から季節の変化を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファーや椅子、テーブル、ベットなどを配置して工夫している。居心地良く、落ち着ける居室をめざしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く落ち着ける居室をめざしている。	収納スペースが多く片付けることができるのであまり多くが置かれていない。テレビや衣装ケース、イス等を置いたり、家族写真を飾ったり過ごしやすいように考えられているが、日中の殆どの時間をホールで過ごす方が大半である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じて環境整備を行い、安全で自立した生活が送れるように対応している。		